

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン**

東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

2月初め、フィリピンからルイス・アントニオ・タグレ枢機卿様が、被災地に住むフィリピンの方々へミサを捧げるため、仙台教区のカテドラルである元寺小路教会へお越しくださいました。今回はミサの様子と、宮古ベースの活動の様子をご紹介します。まだまだ、被災地では支援を必要としている方がおられます。どうぞ、今後も被災地の方々へ寄り添っていただければと思います。

ありがとう タグレ枢機卿様

フィリピンで今、一番人望が厚く、人々が頼りにしているというマニラ教区大司教のルイス・アントニオ・タグレ枢機卿様が、2月1日、仙台でミサをささげてくださいました。

今回、タグレ枢機卿様は、2月3日に神戸で行われる「高山右近殉教400年記念ミサ」に出席するため、1日から仙台、東京、大阪、神戸とまわり、4日朝にローマへ出発される日程で来日されました。

お忙しい日程の中、タグレ枢機卿様は東日本大震災の被災地のフィリピンの人々にどうしても直接会いたいとご希望され、羽田空港到着後すぐに仙台へと移動され、夕方6時のミサ、ギリギリに元寺小路教会へ到着されました。枢機卿様についてのお話は、様々なところで耳にしますが、実際お会いすると、お若く、気さくなお人柄で、すぐに



仙台教区のフィリピン関係者を魅了していました。

タグレ枢機卿様の福音朗読後の説教の一部をご紹介します。



「仙台教区に來させていただきましたことを、まず平賀司教様に、そして皆さまに感謝申し上げたいと思います。

今日、皆さまと一緒にミサをささげられますことを、うれしく思っております。

仙台教区とフィリピンには、共通点がございませぬ。それは、3年前、仙台で大きな地震、そして津波がありました。最近、フィリピンでも地震、また、スーパー台風、強い台風が来てしまいました。

仙台教区とフィリピンの人々は、痛み、悲しみを共通にしています。それに、希望も一緒に抱いています。

今日は、キリスト者としての生活について、皆さんと分かち合いたいと思います。特に今日の福音と朗読の聖書の言葉から、その大事な点を申し上げたいと思います。

今日の福音の物語の中で、シナゴグにいた会衆のイエス様に対する反応は、このようでした。イエスのその教えに驚いたし、何よりも、そのイエスの持っている権威に驚いていました。会衆は、イエスと当時の長老たちを比較していたのです。その長老たちには権威がありませんでしたが、イエスには権威がありました。その宗教者のリーダーたちの権威は、どこから来ていましたか。その宗教の指導者たちの権威は、やはり、彼らの研究と、それぞれのタレント、また、教わった先生たちの教えを引用してました。そこから、彼らの権威が来てました。私たちもそういった指導者たちを見ていることがあるのではないのでしょうか。

皆さんにお尋ねします。私たちは、イエスの権威を認めていますか。イエスの権威は、私たちの心に、そして私たちのすべての人生にしみこんでいるのでしょうか。

時には、イエスよりお金のほうに私たちは権威を認めます。例えば、CMを見て、CMの権威が私たちに入ります。そのCMに映っているものを、私たちは買ってしまいます。さらに、私が説教をするとき、皆さんは座り、大司教を見ている。大司教は、皆さんが私の説教を聞こうとしていると考えます。ところが、2分経つとこっくりこっくりし始めます。イエスのところに行かず、寝てしまいます。しかし、テレビドラマを見ている時は、一生懸命その番組を見ている。

今日の説教の言葉を聞いて、私たちは自分を反省しなければなりません。イエスの言葉が、本当に私たちにいちばん影響を与えているのでしょうか。

聖パウロのことばにあったように、私たちがどのような生活をしていたとしても、それぞれの生活の場で、まず、イエスを中心にしなければなりません。イエスを中心にしなければなりません。イエスが私たちの生活の中心となるように、少し黙想いたしましょう。」

ミサの最後、拝領祈願が終わった後に、平賀司教様からお忙しい中、お時間を取ってくださったタグレ枢機卿様へのお礼と感謝のご挨拶がありました。東日本大震災によって様々な苦難を味わったが、この震災によってフィリピンからの方々が大勢、仙台教区にいられたことがわかったこと。仙台教区の教会メンバーとして本当によく働いてくださっていて、フィリピンの方々のおかげで日本の教会が生気をもらっていること。そして今回タグレ枢機卿様がおいでくださったことで、もっともっと元気が出て、教会として活躍して下さるだろうというお言葉がありました。

その後、タグレ枢機卿様から平賀司教様のお言葉へのお礼と、以下のような挨拶をいただき、ミサが終了しました。

「平賀司教様がおっしゃったように、日本では、仕事だけではなく、ミッション・宣教も見つけていただきたいと思います。信仰、家族の愛、質素な生活を、どうぞ教区の多くの皆さんに分かち合ってください。何日か前、教皇フランシスコがフィリピンを訪問された際に、フィリピンには、元氣、若さ、信仰、エネルギーが見えます、とおっしゃられました。仙台でもその若さ、その生き生きとした信仰を、どうぞ分かち合ってください。



この中で、結婚されている人は、どうぞ子どもたちに司祭やシスターになるように勧めてください。結婚されていない人は、よかったらこのミサの後、司教様のところに行って、神学生になりたいと申し込んでください。本当に皆さんの信仰によって、いつか、司祭、修道者の召し出しが生まれますように。これを希望して、終わりの言葉にしたいと思います。

もう一度、司教様と皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございます。」

札幌カリタス宮古ベース お茶っこ活動の現状と様子

～札幌カリタス宮古ベース活動報告より～

宮古ベースでは、世話人5名の2週間輪番制で活動を維持しています。ボランティアが少ない時には、宮古教会や盛岡教会の方々へ協力をいただいています。

活動内容は、当初から変わらずに仮設でのカフェ傾聴を行っており、被災者が必要としている情報をあわせて提供するように心がけています。最近では、引っ越し費用補助（最大6万円）があることをお伝えしました。また、お茶っこへ参加されない方への取り組みとしては、昼食会、足湯、手もみなどを行うと参加者が増える傾向にあるため、適宜工夫して行っています。（引っ越し費用補助については、各地方自治体によって、金額が異なります。宮古市は最大6万円。）

仮設訪問数は、住民が減少して訪問要請がなくなったところもありますが、一方でこれまで割り当てられなかった仮設への訪問要請があります。そのような新規訪問場所では、住民の方が多く集まります。

現在、多くのカフェ開催場所で、災害復興住宅の話題が出ています。また、復興住宅の希望場所の抽選に外れた方から相談を受けることや、復興住宅へ引っ越したが、「隣同士の交流がなく、寂しい」という声を聞くこともあります。仮設を出られてもこれまでのつながりをなくしないということから、わざわざバスを乗り継いでカリタス移動カフェに参加してくださる方もいます。

岩手県内の復興住宅完成は、その38パーセントが平成28年にずれ込む予想も出ており、この端境期に、仮設に暮らす人も住宅に移った人たちにも動揺が表れているようです。

2月は、4日間のカフェ臨時休店がありましたが、18ヶ所、延べ20回の移動カフェを行いました。

【世話人のひとこと】

- ・最近ではフェリーで八戸港に到着後、本八戸駅には行かず、陸奥湊駅へ行きます。そこには朝市場があり、JR八戸線を南下して久慈（北リアス線）から宮古へ向かう際にも時間に余裕が出来、市場で食材を購入して、暖かいご飯と味噌汁を食べることが出来るのです。が、この日は日曜日。市場がお休みで、寒い駅で淋しい列車待ちとなりました。



- ・仮設住宅を出られて住宅を新築、復興住宅へ移られる方が多くなってきましたが、また新たな悩みも出てきました。仮設住宅で親しくなった方がバラバラになり、新しい環境で生活する悩みがあります。新しいご近所の人と交流がうまくいかない。個人情報の問題があり、どんな人がいるのかも分からず不安ですと話されています。



（宮古市本町地区の復興公営住宅イメージ図）

【移動カフェの様子】

☆高浜仮設住宅：今日はSさんの誕生日。かねてからの約束通り、みんなでパーティーを行いました。お誕生日のSさん自ら、牡蠣鍋、炊き込みごはんを作って皆さんに振舞っていました。絶品！

ケーキにローソクを灯し、皆でバースデイソングを歌い、話し合い、笑い、楽しい1日となりました。

☆浄土ヶ浜仮設：朝、到着すると集会室はとても温かくなっており、一人の方が一生懸命作業をしていました。宮古のマスコット人形、サーモン君とみやこちゃんを作っているところでした。近々、大々的に販売する予定で、準備で忙しいということでした。合計7名の参加で、お昼は、かしわうどんを作って皆で食べました。



☆二中仮設：朝8時6分に地震があり、防災無線のサイレンが何度も鳴り、津波警報が出されたため、海岸近くの仮設の人たちがとても心配でした。このようなことから、今日は来訪者が少ないのではないかと思いましたが、11名の方が来られました。話題はやはり震災中心の話となり、避難する時、へそくりを忘れて引き返そうと思ったが諦めた。戻っていたら命がなかったと話された方もいました。

☆鎌ヶ崎集会所：以前の集会所が、区画整理事業着手によって閉鎖・解体されたため、場所を新たに2014年12月に出来たこの集会所では、今年1月から移動カフェを開催するようになりました。まだ給排水が完備されておらず、ガスも使用出来ない状態です。1月は近くの仮設の談話室から水を運び、カセットコンロでお湯を沸かし、コーヒーや蕎麦を提供しました。片付けの際も、洗い物を談話室まで運んで行うという作業で、震災直後の皆さんの苦労を多少感じることができました。2月になっても水道やトイレはなく、不便を感じました。今回は近くにある2つの仮設のお母さんが来られ、和やかな雰囲気の中でコーヒー出しも積極的にお手伝いしていただきました。昼は、児童公園仮設談話室に招かれて、うどんをごちそうになりました。カフェが終わった後の食器洗いもすべて仮設のお母さんたちがやってくださり、ボランティアに来たのにボランティアをしていただいた形でした。

☆中里仮設：たくさんの方がそれぞれの仲間と和やかに話されていま



宮古ベースの拠点 カトリック宮古教会

したが、見事な宮古弁なので、言葉と会話が交差して意味不明状態。静かに見守りました。お昼にイモを湯がいてバターと塩辛をのせてみんなで食べましたが、塩辛で食べるのは初めての人がほとんどで、美味しいと言ってくれました。

☆清寿荘仮設：今日は、28日に行う自治会の総会の打ち合わせをしていました。自治会長さんがすでに仮設を出ており、総会で新年度から自治会を継続するかどうかを決議すること。自治会は無くなっても談話室での各集まりは社協に届けば出来るそうが、仮設住民のサポートとしての自治会を本当になくしていいのか悩んでいました。

☆西ヶ丘仮設：仮設をまとめて下さっていた元自治会長さんも4月には災害公営住宅への引っ越しが決まり、少し淋しそうでした。公営住宅での集会所にカリタスが来てもらえるのかとのことで、社協の要請があれば同様のカフェを実施できることを伝えました。午後は久しぶりに皆さんと歌集をもとに懐かしい歌をうたい楽しく過ごすことができました。

☆児童相談所仮設：今日はカリタスの日ということで、事前に準備をしていたようで、コーヒーを飲むのも早々に「ひゅうず」作りをみんなで行いました。作晩から仕込んでいただいた小麦粉の生地にくるみ、黒砂糖、ゴマを包み、ゆでて出来上がりです。胡桃の食感とごまの風味、黒砂糖の甘さが絶品でした。

その他にも、先日急に網や手ですくえるほどのイワシの大群が、隣町の山田港に押し寄せたことから、そのイワシをいただいたというので、から揚げにして振る舞っていただきました。いつもながらの歓迎に感謝です。